

令和2年度病害虫発生予察特殊報第2号

令和2年10月8日
静岡県病害虫防除所長

1 病害虫名 和名：シイノコキクイムシ（キクイムシ科）
学名：*Xylosandrus compactus* (Eichhoff)

2 発生作物 洋ラン

3 発生経過

- (1) 令和2年8月中旬、静岡県中部地域の洋ラン生産ほ場において、バルブに直径1mm弱の円形の孔が開き、その上部が次第に褐変し、やがて枯死する被害が西部農林事務所を介して報告された（写真1、2）。加害されたバルブからは成虫のキクイムシが見つかった（写真3）。農林水産省名古屋植物防疫所清水支所に同定を依頼した結果、9月7日にシイノコキクイムシ(*Xylosandrus compactus*)と診断された。
- (2) 本県で発生の確認された生産者は、発表時点で1戸のみである。

4 特徴

(1) 分布

本種は日本をはじめ、中国、台湾、ベトナム、インドネシア、フィリピン、インド、アメリカ、ブラジル、ニュージーランド、南アフリカなどに分布する。

(2) 加害植物

国内ではチャ、ハナミズキやアジサイなどで、本種の加害が報告されている。海外においては、アボカドやコーヒーの害虫として、また、アメリカでは、ランへの加害の報告がある。国内のランへの食入加害が確認されたのは、平成24年に愛知県のカトレアで発生が確認されて以来、2例目である。

(3) 形態及び生態

雌成虫は体長が1.3~1.7mm、短い円筒形で、光沢をもつ黒色または暗赤褐色をしている。同属のハンノキキクイムシに酷似するが、それに比べ体は小さいこと、上翅後半部の溝には毛列をそなえることなどで区別される。

野外では、各種広葉樹を加害し、年2回発生する。7~8月に第1世代幼虫、8~9月に第2世代幼虫が現れる。成虫が加害樹の孔道内で越冬する。越冬後、6~7月には孔道を出て飛翔分散して、新たな広葉樹の枝などを穿孔し、孔道をつくる。

(4) 被害

成虫は孔道内にカビ（アンブロシア菌）を持ち込み、ふ化した幼虫は、増殖したカビを食べて生育する（写真4）。穿孔された枝幹は、それにより上部が枯死し、多発すると枝枯れ症状を呈する。

5 防除対策

- (1) 食入孔が見られるバルブは、見つけ次第除去し、処分する。
- (2) 現在、洋ランにおける本種に対する登録農薬はない。

【参考資料】



写真1 バルブに開いた孔 (矢印)



写真2 枯死したバルブ (写真中央)



写真3 シイノコキクイムシ成虫
(体長約 1.7mm)



写真4 バルブ内で増殖したカビ

問い合わせ先： 静岡県病害虫防除所

TEL. 0538-36-1543